

1 英語科の研究主題

基礎基本となる語い力の定着を図り、またその知識を活用した表現力、読解力の向上を目指す。

2 研究の概要

(1) 主題設定のねらい

研究のねらいは基礎基本となる語い力の定着を図り、またその知識を活用した表現力、読解力の向上を目指すことである。区の学習力サポートテストにおいて生徒の表現力が平均点よりも低く、表現力の向上が課題であることが分かった。語い力の定着は英語学習の土台となるものである。その土台を作る上で様々なアプローチで語い力を高めていくことが必要である。語い力を高め、それによって得た知識を基に自分の考えや伝えたいことをまとめてスピーチを行ったり、相手と英語でコミュニケーションをとったりすることができる。また英文を読んで内容を把握したり、相手の話や考えを聞いて趣旨を理解したりすることができる。以上のように語い力の定着から表現力や読解力を高め、コミュニケーション能力をはぐくんでいく必要がある。その際、どのようにしたらより語い力を高めることができるのかを本研究を通して様々な方策を試しながら見付ける。

(2) 概要

① 新学習指導要領を踏まえた教科の基礎学力観と生徒の実態と課題

読む・書く・聞く・話すの4技能の総合的な育成を行い、それらを活用できるコミュニケーション能力が基礎学力である。表現力、特に書くことが苦手な生徒が4割程度いる。授業においてペアワークやプレゼンテーション、スピーチ等を通して表現力を高めていく必要がある。

② 読解力育成の視点と取り組み

読解力を育成するためには、様々な情報を理解するための基礎的な学力が必要である。中でも語い力は必要不可欠である。そのために平成20年度から全学年・全学級でビンゴブックを活用している。そして様々な活動を通して、その語い力の活用の仕方を指導して情報が理解できるよう指導している。

③ 思考力・判断力・表現力育成の視点と取り組み

思考力、判断力、表現力を育成するためには、情報や場面を分析し、それを理解し、自ら発信する活動の場を作ることが必要である。授業において様々な場面設定をし、ペアワークやグループワーク、ALTとの活動等を通して発表する場を設けている。

④ 評価の工夫

学年ごとに評価の工夫を行い、習熟度別のクラスごとに学習内容に対しての目標を設定している。例えば第3学年では、標準・発展クラスでは暗記して発表、基礎クラスでは見ながら音読するというように評価方法を分けている。また評価の偏りをなくすために、それぞれの授業で何を評価するかを明確にし、授業において様々な活動場面を設定している。

⑤ 指導法の工夫・改善点（指導形態、指導方法、開発・工夫教材等）

英語科では少人数授業を展開している。しかし、実態に応じて少人数授業でも習熟度別

や単純に分割にするなど、学年の学習状況に応じて分け方を変えている。今後少人数授業の展開方法を分析した上で、生徒にとってより学びやすい方向性を模索する。

⑥ 新学習指導要領を踏まえた取り組み

新学習指導要領では4技能(読む・書く・聞く・話す)を総合的に学習することが明確になっている。それを踏まえて4技能のいずれかに比重がかかることなく、4技能をバランス良く学習するための工夫を行っている。

3 19、20年度の取り組みからの考察、課題

英語科では全学年・全学級で習熟度別の少人数授業を行っている。少人数クラスの分け方は各学年ともに能力別とし、定期テスト等での結果で判断した。また、生徒のクラスを年間で固定せず、学期ごとの定期テストや単元別テスト等の結果で変更した。学年ごとに2名ずつ担当教員がおり、それぞれ基礎クラス、発展クラスの両方を交互に指導する形式をとった。第3学年は1・2年の総復習をする授業と、第3学年の教科書の内容を学習する授業でそれぞれ基礎クラスと発展クラスでの習熟度別少人数授業を行った。

基礎基本となる語い力の定着とその知識を活用した表現力、読解力の向上を目指す上で、全学年でビンゴブックを活用し、語い力の定着を図った。授業で毎回ビンゴブックを活用することで、生徒は単語を繰り返し書き、自然と書けるようになった。また教師が読み上げる単語を聞き、どの単語を読んでいるのかすぐに把握できるようになり、読解力の向上につながった。また表現力を身に付けさせるよう自由英作文、スピーチやALTとのインタビューを授業で行った。英作文では繰り返し書き、スピーチやインタビューでは繰り返し英問英答を行うことにより、会話やスピーチでの基本的な表現を身に付けることができた。

研究課題である基礎基本の定着とそれを活用した表現力や読解力の向上のために、言語活動のさらなる工夫の必要性が今後の課題であると感じた。

4 21年度の取り組み

前年度に引き続き英語科では全学年・全学級で習熟度別少人数授業を行っている。取り組みとしては昨年度と同じ研究テーマで行っている。今年度もビンゴブックを継続して活用し、語い力の向上を図っている。さらに今年度は全学年の授業開始時に英問英答を実施している。そのことにより天気や日付、曜日などの日常会話の基礎・基本をどの生徒でも答えられるようになった。またウォームアップ用にクリスクロスなどのゲームを取り入れている。それにより生徒自身が日常の出来事を簡単な英語の表現を用いて自分の言葉で伝えることができるようになった。

5 具体的な実践例

(1) 第1学年

① 単元名 Lesson 6 Assistance Dogs, New Crown English Series Book 1
(三省堂)

② 単元の目標

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度

(ア) 英語で進められる授業に自然に参加し、学習を継続することができる。

(イ) 言語活動に積極的に取り組むことができる。

イ 表現の能力

- (ア) 一般動詞を含む三人称単数現在形の表現を使って、話し相手に内容を正確に伝えることができる。
- (イ) 一般動詞を含む三人称単数現在の文型や、語法、適切な文章形式を踏まえて、英文を正確に書くことができる。

ウ 理解の能力

- (ア) 一般動詞を含む三人称単数現在形の英語の会話を聞いて、その内容を正確に聞き取ることができる。
- (イ) 質問や呼びかけ、指示などの英語を聞いて、適切な反応ができる。
- (ウ) ある分量の英文を読んで、その大意を読み取ることができる。

エ 言語や文化についての知識・理解

- (ア) 三人称単数現在についての文法事項を踏まえて、適切な表現として用いることができる。

③ 本時の目標

〈共通〉

- ア Oral Introduction を聞いて、意味を推測し、その内容を正しく理解できる。
- イ does not / doesn't を含む表現に慣れ、英語による応答ができる。

〈発展〉

- ウ 用法や適切な文章形式を踏まえて、does not / doesn't を含む英文を正確に書くことができる。

④ 基礎クラス・発展クラスによる指導や支援の違い

ア 基礎クラスにおけるティームティーチング

基礎クラスはクラスのモデルとなり、言語理解の手助けとなる生徒が少ない、または自信のなさから積極的に前に出ようとする生徒が少ない。そのため、発話を促す、個別に支援を行うために区講師とのティームティーチングを取り入れている。それに対し、発展クラスにおいては、生徒を言語活動のモデルとする機会を多くもっている。

イ 基本文型中心の基礎クラス、自己表現中心の発展クラス

基礎クラスは、積極的なコミュニケーションへの参加と基本文型の定着を目標に掲げ、基本文型の反復練習を中心に行う。適切な語法、文構造の理解が表現力の伸長に不可欠だからである。発展クラスは、基礎クラスの目標に加え、自己表現能力の伸長を目標とし、表現の活動を行っている。

⑤ 本授業と研究との関連

研究主題は、「基礎基本となる語い力の定着を図り、その知識を活用した表現力、読解力の向上を目指す」ことである。そのため、授業内の繰り返しの活動として、語い力の定着、読解力向上のためにビンゴブックを活用し、クリスクロスゲームで表現力の向上を目指す。習熟度別少人数授業という授業形態については、習熟度別にクラスを展開することによって、生徒の学習状況に応じて表現力、読解力の向上を図っている。また、少人数授業であるという利点を生かし、生徒全員が発言及び発表する場を設けるようにし、生徒一人一人に対し、よりきめ細かく指導を行っている。

⑥ 本時の展開

	学習項目	生徒の活動	教師の働きかけ	指導上の留意点	評価（評価方法）	技能
あいさつ	チェック あいさつ (2分)	あいさつをする。	・持ち物の確認 ・元気よくあいさつさせる。	英語の授業を始める雰囲気を作る。		話す
ウォームアップ	Crisscross (5分)	・質問に答える。 ・正しく答えたら、縦か横の列を指名し、指名された列の生徒は座る。	既習文型を使って生徒に質問する。	新しい文型を中心にさまざまな既習文型を用いる。	・質問された内容を理解できているか。 ・正しく答えられているか。（Q&A）	聞く 話す
アップ	ビンゴ (5分)	・事前に単語を記入し、読み上げられた単語をチェックする。 ・ペアと競争する。	・日付・天気を尋ねる。 ・単語を三回読み上げる。	・月や曜日のスペルの確認をする。 ・発音を明確にする。 ・スペルを示す。	・意欲的に取り組めたか。 ・正しい単語を聞き取り、チェックできているか。（観察）	書く 聞く 読む
復習	前時の復習(3分)	・Picture cardを見て、教師の質問に答える。	・Picture cardを使って、三人称単数現在の疑問文を使った質問をする。	・視覚的材料を用いることで、本文内容や文型の復習の支援をする。	・積極的に発言できたか。（観察）	聞く 話す
新出文型の導入	三人称単数現在否定文(doesn't)の導入 (5分)	・Picture cardを見て、教師の話す内容を想像する。	・Picture cardを使って、doesn'tの用例を紹介する。 ・doesn'tを提示する。	・視覚的材料を用いて、生徒の注目を集め、内容理解の支援をする。 ・doesn't / does notを強調して読む。	・doesn't / does notの意味と形を理解した/しようとしたか。（観察）	聞く 話す
新出文型の確認	基本文型の提示(8分)	・教師の後に続いて、読む。 ・指定された単語を入れて、読む。 ・指名された生徒は立って、読む。	・ワードカードを使い、基本文型を黒板に提示し、説明する。 ・様々な語いを紹介し、リピートさせる。 ・語いを指定し、生徒に発話させる ・生徒を指名し、読ませる。	・大きな声で読ませる。 ・必要に応じて、一緒に読む。	・積極的に発言できたか。 ・doesn't / does notの意味と形を理解した/しようとしたか。 ・教師の読んだ例文を正確に再現できる/しようとしているか。（観察）	

	ペアワーク インタビュー活動 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> モデルトークを聞く。 ペアになり、インタビューを行い、終わったら座る。 ワークシートに書き込む。 教師と練習する 指名された生徒は発表する。 読んだ文をプリントに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> モデルを示す。 プリントときらいなもののリストを配布する。 生徒を立たせ、ペアでインタビューを行い、終わった生徒から座らせる。 基本文の練習を行う。 生徒を立たせ、挙手した指名し、発表させる。 読んだ文をプリントに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間支援をし、積極的な参加を促す。 十分に練習を積み、発表への自信を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して、タスクに取り組んでいるか。 文構造や意味を理解し、正しく発話できているか。(観察) 	聞く 読む 話す
まとめ	新出文型 確認(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 文構造を再度説明し、ノートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの取り方を指導する。 		書く
挨拶	宿題確認 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 元気よくあいさつさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声であいさつさせる。 		話す

(2) 第2学年

① 単元名 New Crown 2 ENGLISH SERIES NEW EDITION

Lesson 5 DO IT WRITE 1

② 単元の指導目標

ア ” My Dream ” という題で、「～したい」、「～することが好きだ」など、不定詞を使い、自分の将来つきたい仕事についてスピーチ原稿を書き、発表をする。(不定詞の定着をはかる。)

イ 長い文章を書くということで生徒は尻込みしてしまいがちだが、文章の組み立て方のパターンをわかりやすく提示し、添削されたものを暗記して発表することにより、表現力の蓄えを増やす。

ウ すでに何度か取り組んできているが、「伝える」ことを意識したスピーチのプレゼンテーションの方法について再確認する。

③ 単元の指導計画と評価計画

	ね ら い	学 習 活 動	評 価
第1時	①将来の夢や就きたい職業について考えさせる。どんな内容について書きたいか、イメージを膨らませる。	<p>あらかじめ、前の授業で、将来つきたい職業や夢について考えておくように言う。</p> <p>①書きたいことを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来の夢について真剣に考えてみたか。 書きたいことが決めら

少人数	②論理的な文章の構成について理解させる。 ③作文をするに当たり、使わなければならない文法や、便利な表現について確認する。 →本時は主に作文のための基礎固め。	②教科書のモデル文を読み、文章の構成について理解する。 ③プリントを使い、文の構成や、作文するに当たり、使わなければならない文法や、便利な表現について確認をする。 ④作文を始める。	れたか。
第2時 少人数	「伝える」ことの意味、その難しさ、手段等について説明。	作文の続き。終わった生徒から、発表用の作画(スピーチの内容を補足するもの)に取りかからせる。作文は回収、添削。絵は宿題。	・「伝える」ことを意識して作文や作画ができているか。
		添削したものを返却、家で暗記。絵を回収。 回収したスピーチ用の絵をパソコンに取り込んでおく。	
第3・4時 合同	〈本時〉自分のことについて「伝える」	・発表 内容伝達の補助材料としてスクリーンに映し出された紹介用の絵を指しながら、生徒は発表を行う。 みんなで発表について、自己評価と感想を語り合う。	・暗記ができているか。 ・積極的に相手に伝える姿勢でスピーチを行っているか。 ・発表をよく聞いているか。

④ 本時のねらい

お互いのスピーチを聞いて学びあうために、合同授業を行う。(発表第1回目)

ア 不定詞や文の構成を理解した上で暗記ができています。

(言語や文化についての知識・理解)

イ 積極的に相手に伝えようとする姿勢でスピーチを行っている。(表現の力)

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

ウ 相手のスピーチを積極的な姿勢で理解できる。

(理解の能力：思考力、判断力)

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

⑤ 本授業での研究に関する取り組み

研究主題は、「基礎基本となる語い力の定着を図り、その知識を活用した表現力、読解力の向上を目指す」ことである。そのためビンゴや日常の単語テストなどで、語い力の定

着を図っている。蓄えた語いや、それまでに習った初歩的な英語を用いて身近な話題について生徒が作文したものを添削し、正しいフレーズを暗記、表現力を蓄積させる（表現力）。蓄積した表現力を元に、相手の言っていることも理解する（読解力）。少人数授業では、特に作文の授業では一人一人にきめ細やかに指導ができる。ただし、最後の発表は、お互いのスピーチを聞いて学びあうために、合同クラスで行う。

⑥ 本時の展開

	時間	学習活動と学習内容	教師の働きかけ	指導上の留意点
導入	7分	Greeting Criss Cross	あいさつ ・日付、曜日、天気について質問する。 ・スピーチに必要な重要フレーズを使って質問しながら復習をする。	① I want to _____. ② I like to _____. ③ I can _____. を使う。
展開	30分	Speech (1) 発表するときの大切なことの説明	〈板書事項〉 ①暗記ができているか。 ②聞きやすい、大きなはっきりとした声が出ているか。 ③文章と合うように絵の指示ができているか。 ④声の抑揚や簡単なジェスチャーを付けているか。 ⑤笑顔はあるか。	発表の前に全員で確認する。
		(2) 生徒の発表	スクリーンに生徒の発表の順番に絵を映し出す。	必要に応じて、生徒に援助をする。
まとめ	13分	講評と生徒の感想 Closing	発表について生徒に話を する。生徒からも自己評価や、他の発表を聞いた感想を述べさせる。 あいさつ。	他の人の発表からどのようなことを学んだか。

※ T 1 が主に授業の進行をし、T 2 がパソコン操作を行う。

(3) 第3学年

① 単元名 New Crown 3 ENGLISH SERIES NEW EDITION Lesson 7 P64

② 単元の指導目標

ア how, why などの疑問詞を使って説明する

イ 貧困問題について考える

③ 年間指導計画における位置付け（単元設定の理由）

年間指導計画 6 スパンのうちの 6 スパン目に当たる。単元設定の理由としては、新学習指導要領にもある、「広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと」という内容を踏まえており、3年間の英語のまとめの学習を始めるのに相応しいと考えたからである。

④ 本時のねらい

ア 第3文型の概念及び文型そのものの意味を知る。

（言語や文化についての知識・理解）

イ 文章や写真からおおまかな内容を把握できる。（理解の能力：思考力、判断力）

ウ ペアワークや音読で正しい発音で発表できる。（表現の能力）

⑤ 研究主題との関連

研究主題は、「基礎基本となる語い力の定着を図り、その知識を活用した表現力、読解力の向上を目指す」ことである。語い力の定着のためにビンゴブックを活用する。また、習熟度別少人数授業を展開することによって、生徒の学習状況に応じて表現力、読解力を伸ばす活動を多く取り入れている。そして習熟度別少人数授業によって、生徒一人一人に対しよりきめ細かく指導している。

授業を行う上で、毎時間生徒全員が必ず一度は発言及び発表の場を設けるようにしている。また板書では文法用語を必要最低限示し、英語を英語のまま理解させるよう工夫している。

⑥ 本時の展開

	時間 (分)	学習活動と学習内容 (発展クラス)	学習活動と学習内容 (基礎クラス)	指導上の留意点	評価規準
導 入	5	あいさつ Bingo	あいさつ Bingo	（発展）ビンゴをネイティブの普通の速さで読む。 （基礎）全員が聞き取れる速さで読み上げる。	質問を理解し、答えようとしている。 読み上げる単語を聞き取りチェックしている。
	5	復習 教科書の例題以外	復習 教科書の例題	机間指導で理解できない生徒支援する。	問題を理解し、文章で表現することができる。
展 展	10	ペアワーク (ワークシートを用いて) ワークシートを見ずに、 数ペア発表	ペアワーク (ワークシートを用いて) ワークシートを見ながら 数ペア発表	生徒全員と1度ペアワークを行う。	ペアワークにて発言している。 積極的に発表している。
	15	音読 (P63) ペアごとに音読の 発表	音読 (P63) ペアごとに音読の 発表	新出単語、本文をリズムよく読む。 (音読練習時間を発展3分、基礎5分とる) ペアごとにコメントを伝える。	ペアで協力して音読する。 正しく音読できている。
	10	板書で文法事項を	板書で文法事項を	板書を見やすく、	ノートをとっている

ま と め		確認	確認	簡潔にまとめる。 板書後、発展クラスは 練習問題を1題行う。	る。
	5	質問に答える	質問に答える	本時のまとめの質問 を生徒に質問する。	質問を理解し、答 える。

6 研究のまとめと来年度への課題

3年間研究を行い、英語科の研究主題である「基礎基本となる語い力の定着を図り、またその知識を活用した表現力、読解力の向上を目指す。」という目標は概ね達成できたように感じる。ビンゴブックを活用することにより、どの生徒も意欲的に取り組み、継続的に語い力を向上させる機会を作ることができた。来年度以降も全学年で取り組んでいく。しかし、語い力の定着の先にある表現力、読解力の向上はペアワークやプレゼンテーションなどの言語活動が不十分であったと感じた。語い力を活用した表現力、読解力の向上のためには、生徒の言語活動の場面設定をどのように工夫していくかであり、効果的な言語活動を繰り返し行うことによって、基礎学力が定着し、表現力、読解力は向上していくと考えられる。

研究を通して、少人数については、多くの成果があった。第一に、生徒一人一人に個に応じたきめ細かい指導・支援ができることである。このことにより、生徒の学習状況や学習課題を十分把握することができる。第二に、生徒の言語活動での活動量が飛躍的に増えたことである。一斉授業では生徒が授業中に数回、もしくは発言せずに終わってしまうこともある。しかし少人数授業では一時間の授業で生徒が何度も発言する機会があり、言語活動により自信をもって活発に発言し取り組んでいる。

課題は本校の実情や生徒の発達段階等を考慮したより効果的な指導形態の創出である。今後、単元や時期によっては単純二分割、あるいは習熟度別で授業を展開するなど、指導計画の工夫・改善に努めていく。